

2019 3/2X

# 大和ハウスやリズム時計…

## 中国進出企業に 会計不正相次ぐ

では原価を少なく見せかける操作があったことが明らかになった。グローバル展開が避けて通れない日本企業にとって、海外での企業統治（コーポレートガバナンス）改善が急務になっている。「現地からの報告がきちんとされていたので、預金残高に問題があるとは思わなかった」。大和ハウスの担当者はこう話す。問題の合併会社は分譲マンションの開発・販売を手掛ける。預金残高と帳簿に約234億円の差額が生じ、約117億円の持ち分法投資損失を計上する可能性がある。大和ハウスによると、中国の合併先から派遣されている取締役など中国

人3人による不正流用の疑いがある。預金残高の確認などを含む合併会社の監査は、合併先企業が選んだ現地の会計事務所が担当している。リズム時計の生産子会社では、2年間で約4億4000万円の原価の過少計上が発覚。2019年3月期の営業利益予想を13億円から7億円に引き下げ、樋口孝二社長は辞任することになった。

決算期末が近づくなか、資金や在庫などを確認する過程で不正が発覚しやすくなっているようだ。中国で事業を展開する企業が多いため、会計不正なども中国での事実が目立つ。日本公認会計士協会によると、18年3月までの5年間で日本企業の海外子会社で発生した会計不正のうち41%は中国が占めている。

中国のグループ会社で不正があった主な企業

企業名	不祥事の内容	影響
リズム時計	時計の製造費を安くみせる不適切会計	業績予想を下方修正、樋口社長が辞任へ
大和ハウス	会社資金を横領	約117億円の損失計上(全額が回収できない場合)
日本郵船	現地採用の元幹部による業務上横領	約17億円の損失計上
LEXILG	監査直前に銀行預金を増額するなど偽装	約656億円の特損計上
東京衝機	着服や架空の売り上げ計上	17年度通期の海外事業が3億円強の赤字に
神栄	滞留債権隠蔽のための架空取引	3億7300万円の損失計上

「日本企業は現地の人材に業務の多くを委ねているケースが多い」（西村あさひ法律事務所）上海に駐在する野村高志弁護士という。中国景気の減速も遠因となっている可能性がある。「業績悪化で給与が目減りしたり、社内のムードが荒れたりすれば、現地の幹部や従業員による不正が生まれやすくなる」（大手監査法人の幹部）との指摘があった。

日本企業の中国の関連会社で会計・資金不正が相次いでいる。大和ハウス工業は現地企業との合併会社で巨額の不正流用が発覚。リズム時計工業